

# 生活 & 総合 navi

～平成27年度版 生活科教科書特集号～



全面改訂

★ 課題解決型の学習を生活科で! → P2

★ 保幼小連携対応スタートカリキュラムの新設! → P26

★ 伝え合い活動を独立小単元に! → P28

日文の実践事例, 教科情報

詳しくはWebへ!

# CONTENTS

01	● 日文の考える生活科	
02	● こう変わる！ 日文の生活科	
05	● 大切にしてきたものへの追求	
08	● 座談会 新版生活科教科書への思い	村川雅弘／藤井千春／中西 史／三田大樹
	● 教科書活用術～小学校の先生からの提言～	
12	I 草花単元編	
15	II さんぽ単元編	
18	III 成長単元編	
21	IV 図鑑・資料ページ編	
24	● コラム 必見！ 日文の著者陣からの発信	
	防災・安全…片田敏孝・河田恵昭 環境…江守正多 特別支援…大内 進	
26	● 必読！ 上巻巻頭の「いちねんせいになったら」とは？	和田信行
28	● 必然性のある伝え合い・交流活動を小単元に！	野口 徹
30	● 全国の先生のご要望に応える充実の図鑑・資料ページ	
32	● わたしのこだわり	真島聖子／馬野範雄
裏表紙	● 連載 Dr. 小林のこれなあに？～特別編～	小林辰至

## 表紙への思い

新版『わたしと せいかつ』では、約20年前に産声をあげた生活科の原点の一つともいえるべき、**自然との共生、人や社会とのかかわり**などを大事にし、それをコンセプトにつくりあげていきました。

そして、実際に子どもたちがいつも手にする教科書を親しみのもてるものにしたいという思いから、活動内容に関連する、シャボン玉と子ども(上巻)、生きものと子ども(下巻)を中心に配置し、先生が「シャボン玉(ザリガニ)の教科書を出してください！」と親しみをこめて子どもとコミュニケーションをとってほしいと願っています。

また、ファンタジックで目をひくようなイメージ、かつ全て本文に登場する内容で構成されており、それらを合わせて思わず開いてみたくなるような表紙を心がけました。



## スマートフォンやタブレットをかざすと動画が楽しめる!

- 1 スマートフォンまたはタブレットで、ストアアプリを起動します。
- 2 「カザスマート」で検索し、アプリをダウンロード。
- 3 「カザスマート」アプリを立ち上げます。
- 4 マークがあるページで紙面全体にかざすと、動画が始まります!

★P1 (日文の考える生活科), P8 (座談会), P26 (上巻巻頭)で動画の視聴ができます。  
※動画は、2014年8月31日まで視聴することができます。

### ● 日文の考える生活科 ●

写真一枚、イラスト一枚から全て細部に至るまで、子どもの表情やしぐさなどにこだわりをもって教科書をつくっています。

「未来になう子どもたちへ」をキャッチフレーズに、子どもたちの豊かな心を育み、確かな学びを引き出したいという思いを常に念頭におき、編集をしています。

### キャラクターへのこだわり

新版キャラクターは、かわうそをモデルにして、親しみをもてるよう設定しました。

学びの助けになるような一言をつぶやきながら、子どもたちと一緒に歩んでいきます。

# こう変わる！ 日文の生活科

## 1 授業の流れがわかる！

### 課題解決型学習スタイルの提案

子どもが発するような言葉でページの内容がすぐわかるタイトル。



ページ(授業)の流れ

下巻 P32-33

課題(授業のめあて)に沿って授業を進められます。

これまでよりもワイドな紙面を生かして、絵本の構成のように、左ページから右ページへのストーリー展開を実現しました。

これから生活科を始める教師や久しぶりに生活科に携わる教師も、教科書を開いてみると、たちどころに課題解決型学習を理解することができ、ストーリー仕立ての授業展開が見えてきます。

## 2 授業が充実する！

### 授業力向上のためのアイテムが満載

下巻 P46-47



#### 側欄

- 赤** 安全・ルール・マナー
- 青** ワンポイント・アドバイス
- 緑** 活動のバリエーション

#### リンク

巻末図鑑などへの誘導。学習効果を高めます。

#### 家庭との連携



上巻 P69 下巻 P107

#### 教師の支援

##### 上巻

- ・子どもの目線に合わせた姿勢・立ち位置。
- ・主体的に活動できるよう導く。
- ・一緒になって楽しむ。



上巻 P61

##### 下巻

- ・子どもの自発的な活動を促す。
- ・子どもたちを見守る。
- ・停滞したときなどに、活性化のヒントを出す。



下巻 P98

#### めくり

見開き右下に配置。ページをめくったイメージ。



上巻 P29

#### 体験と座学をつなぐ

#### 他教科との関連



下巻 P53

※その他、ストーリーをつなぐ、手立ての例示など、たくさんの役割を担っています。

# 大切にしてきたものへの追求

バージョンアップ

## 3 子どもの気付きの質と思考力を高める！ あえて答えを示さず、 考える子どもを育てる



上巻 P28-29  
教室環境の例示

### 子どものつぶやき

子どもが疑問に感じたことや不思議に思ったことなどを中心に吹き出しで表現し、興味・関心を引き出す工夫をしています。

### 教師の手立て

教科書のあらゆるところにすぐに使える手立てが満載です。



上巻 P44  
ICT機器活用とアサガオになりきる帽子

### 写真を究める！

#### ●いきいきした表情

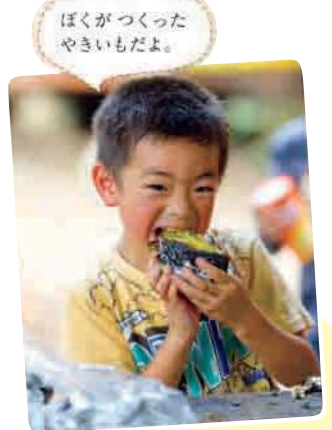
日文の伝統として、「子どもの自然な表情を逃さず、こだわりをもって撮影」を追究しています。

上巻 P79



花たば  
みたい。

下巻 P12



ぼくがつくった  
やきいもだよ。

上巻 P85

#### ●活動のきっかけをつくる

ダイナミックな構成で活動意欲を沸き立たせます。



### よく見ると...

生きものの  
ようすをくわしく  
見てみましょう。

なりきりカード  
なまこ  
なまこは、川や海に住む生き物です。おぼろげに泳いでいる姿が、まるで人の子供のようです。なまこは、おぼろげに泳いでいる姿が、まるで人の子供のようです。

下巻  
P48-49

## イラストを究める!

### ● 千差万別の子どもたちの豊かな表情

写真では表現しきれない細やかな活動の流れや手立てもしっかりと示しています。



下巻 P86-88

### ● 生活科の学習へいざなう

各単元の内容をイメージした単元扉により、生活科ワールドへ子どもを引き込みます。



上巻 P18-19



上巻 P52-53



上巻 P104-105



下巻 P20-21



下巻 P40-41



下巻 P74-75

## カードを究める!

### ● 生活科の必須アイテムを発達段階別に提案

#### 選択式カード

色別のカード。そのときの気持ちで選べる。主に上巻の最初に掲載。

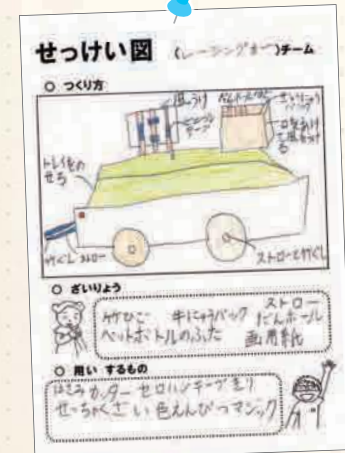


デジタルカメラの写真。機器の活用。

上巻 P41

#### 目的式カード

単元、目的を特化。より深まりのある活動が期待できる。



「遊び制作」単元用のカード。

下巻 P80

#### 自由記述式カード

記述内容は自由。発達段階に合わせて行数を増加。下巻ではタイトルも自分で決めるカードが多く登場。



どんなニュースかを自分で考える。

下巻 P55

#### 発展的カード

多様なカードフォーマット。作文や詩、俳句なども多数掲載して言語活動の充実を図る。



夏休みの思い出を詩に表す。

上巻 P73



**村川 雅弘**

鳴門教育大学大学院 教授  
監修者



**藤井 千春**

早稲田大学 教授 著者  
(企画編集委員)

# 座談会

## 新版 生活科 教科書への思い



**中西 史**

東京学芸大学 講師 著者



**三田 大樹**

東京都新宿区立大久保小学校  
主幹教諭 著者

### 1 前回(平成23年度版)の 日文・生活科教科書との違い

村川：使ってもらえる教科書、読みたくなる教科書、いろいろなことをやってみたいと思える教科書、20年間携わりながら、そういうものをいつも考えてきました。そのことに関しては、信念をもってつくってきましたが、改めて客観的に見ると、そういう理念は伝わらなければ意味がないと思いました。今回はそれをわかりやすくするために、「見える化」ということに取り組みました。

具体的には、

1 子どもの成長が見える……単元の中での子どもの変容や、主人公の設定により、一冊の教科書の中で成長していく様子がわかります。

2 教師の手立てが見える……教師のかかわり方、立ち位置、言葉がけについて、上巻は子どもに寄り添い、腰を落として、じっくりかかっています。下巻はそばで見ながら支援したり、必要に応じて助言をしています。

子どもの成長と教師のかかわり方が具体的に見えるようにしました。

中西：前回の教科書は、センスはよいのだけれど……というもどかしさを感じました。今回の教科書は開いた瞬間、何をすればよいか、何が大切か、がとてもわかりやすいという印象です。

三田：上巻巻頭の「いちねんせいになったら」は小学校の教師にとって、とてもありがたいものではないでしょうか。保護者にとってもわかりやすいと思います。1年生当初の学級経営の流れがよくわかります。「学校ってこういうことですよ。」ということがわかり、生活科を習ったことのない保護者に説明できるという点からもよいです。

藤井：今回は、各単元にストーリー性をもって内容を盛り込みました。教師がどういう展開で指導していったら学びのストーリーが生まれるのか、そういうことを教科書中で見やすくしました。

### 2 編集に携わるにあたっての思い

中西：理科では、子ども自身が検証するプロセスを大事にしています。そのため、自然を理解する上で、

どもに是非知ってほしいものでも検証できないものは、教科書では扱いにくいのです。生活科では、多様な生き物や自然に触れ合う中で、自然の不思議さ、素晴らしさに気付くという形でそれらを扱うことができる、それを実現できる教科書にしたいという思いがありました。

三田：総合的学習の時間の観点から、生活科の教科書に落とし込んでいけることは何かということを考えたときに、生活科の授業のイメージを、いかに教師にもってもらおうかということを考えていました。

藤井：新しい考え方、ものの見方、知識、技能を習得するには、問いが大事です。子どもがどういう問いを見つめるのか。それは具体的には子どもどうしの食い違いから生まれます。教科書の中でつばやき、活動している姿、そういうものがたくさん描かれていて、それを見て「ぼくこれ知っているよ。」「やったことあるよ。」などと、子どもたちの心が動くのです。そして、対立や食い違いから、問いが生まれ、学びが成立していくのです。子どもたちが教科書を見て心が動き、何か言ってみたくなる、そういう教科書になるように取り組んできました。

村川：思いや願い、こだわりをそれぞれの著者がもっています。いろいろな能力を持った人が協同して一つのことを成していくのです。最高の教科書をつくるには、そのプロセスが大事なのです。そして、たくさんの人のアイデア、こだわりが生かされるのが大切です。わたしは監修者として、それらを最大限生かし、いろいろな著者の長所を引き出す、そういうことに留意してきました。それが、今回、うまくいったと確信しています。

### 3 日文・生活科教科書へのこだわり

中西：子どもの自然観、科学観の育成にどのような役割を果たすかという観点から、掲載する取り組みや事象・現象、生き物の種類などについて、それが本当に必要か、ベストなものなのかにこだわりました。

三田：空間の使い方にこだわりました。紙面に詰め込みすぎないということを意識しました。内容を先生方にわかりやすく伝える上で、ストーリーをつかって、学びを表現したときに、要素をそぎ落としていき、よりシンプルにしていきました。



**村川**：前回の教科書に登場していたスキルマークや写真を生かした中扉などは、意図が伝わらなければ意味がないのです。現行教科書に関して様々な分野や立場の先生方の話を聴いて、よりわかりやすい紙面、さらにより教科書をつくるために、**これまでのこだわりを捨てたところが、こだわり**でしょうか。教科書の中で友だちはもちろん、異年齢児童や様々な立場や年代の方とかかわりながら問題解決を図っていく子どもの学びの姿をどう具体的に表現するかにこだわりました。

**藤井**：「心が動く」ということでしょうか。教科書の中に登場している子どもたちと一緒に活動して、その子たちと一緒に活動を始めたい、がんばってやってみよう、そういう教科書にしたいと思いました。それには、それぞれの場面のイラスト、写真の詳しさ、正確さ、虫が好きな子、電車が好きな子等、こだわりのある子が見ても偽りのない教科書、具体的には町の鳥瞰地図、生き物の表現といったものを、詳しく正確に描くところにこだわりました。



## 4 一番のPRポイントは何？

**村川**：間違いなく、まずは表紙です。思わず教師も子どもも手に取って開きたくなると思います。そして教科書を開いてみると、内容の充実度が感じられます。つまり、それが表紙に凝縮されているのです。



**藤井**：子どもの成長が見えます。上巻冒頭の「いちねんせいになったら」と、下巻巻末の成長単元を対比したときに、成長が見えるようになっていきます。「小学校ってどういふところなんだらう。」という期待をもって入学してきた1年生が、2年生のおわりにどういふ姿になっているのか、成長単元では、子どもたちが2年間を経た、それぞれの成長した姿がわかります。そして、先への希望をもって3年生になっていきます。このように、それぞれの子どもの成長過程がよくわかる教科書なのです。

**三田**：ページタイトル、課題、構成などから、今日の授業でしなければならないことがわかります。教師が前面に出過ぎるのではなく、子どもの主体性を促すなど、非常にバランスがよいと思います。

**中西**：写真です。活動場面に適した、臨場感にあふれた写真が用いられています。子どもたちはまさにその場にいる気分になり、わくわくしながら早く活動したいと思うでしょう。理科教育の専門家としてみても、質の高い気付きに導く価値のあるものとなっています。



## 5 専門分野の立場から実現できたこと

**村川**：教育工学の立場から言うと、子どもの学びはどのような姿が望ましいのか。豊かな学びを生み出すためには、教師はどういう手を打っていくのか。学校がどのような環境整備を行っていくのか。そういうことを、少しでも具体的な姿や形にして先生方に伝えたいと工夫しました。結果として、質の高い授業をすることができた要素を教科書の中にたくさん盛り込むことができました。

**中西**：自分で課題を見つけて、協同の学びの中で解決していくプロセスをわかりやすく示せたことです。ま

たそこに家庭や地域がかかわることの価値を具体的に示すことができました。これらは理科でも大切なことです。生活科の中での学校外との結び付き、そういうものがはっきりと教科書に示されています。それが3年生以降もしっかりと学びの力、生きる力につながっていくのです。

**藤井**：細かく質高くつくることができたことです。社会科の観点から言っても、それは非常に大事で、写真やイラスト一つをとっても全てに意味がある形になっています。例えば、商店街の屋根の向きですが、切妻造りで雨や雪の落ち方まで計算しているのです。社会のルールとしては、どの方向に屋根に降った雨が落ちていくのかというのは大切なことです。そういうことまで考えることができる教科書です。そして、先生がしっかりと教えることができ、子どもたちには、観察力、そこから考える力が身に付く、今回の教科書ではそれが実現できたと思います。

**三田**：生活科をしっかりと授業される先生は、総合的な学習の時間でもしっかりと探究的な学びを実現しています。この教科書では、**課題解決型の学習**を取り入れることで、子どもも教師も探究的な学び方を手に入れることができると思います。

そして、指導観を変える、その指導観に出会うことができる教科書になったと思います。ある日、カルタで遊ぶ活動を研究授業で見たときのことで。ある教師は、「どうして、カルタ取りを床で寝転がってやらせるのか。」と言い、ある教師は「それこそ生活科だ。」という指導観の違いが生まれます。どうして寝転がらせることに意義があるのか、そういうヒントが満載の教科書です。



## 6 さいごに

**中西**：初めて生活科を教える先生、久しぶりに取り組まれる先生も、見た瞬間「早く子どもたちと生活科がしたい！」と思うような教科書になっています。また、この教科書を使うと探究型の学びのスタイルが身に付き、他の教科でも応用できると思います。

**三田**：習得型の授業はやりやすいとよく言われます。対して、探究や、課題解決ということになると、わかりにくい、意外と難しいと思われがちです。子どもを中心とした課題解決、そのことが、この教科書にはとてもわかりやすく描かれています。子ども中心の課題解決学習が展開できないと、質の高い授業は展開できません。教師としてのプロフェッショナルをめざすという意味でも、この教科書をきっかけにしてください、と言えるようなものができあがりしました。

**藤井**：教師も生活科の授業をしてみたくなる、生活科が大好きになる教科書です。子どもも教師もともに心が動く、そういうことが探究的な学びにつながるのです。言語活動、協同的な学び、そういうことが成立するしかけが、この教科書にはたくさん組み込まれています。教師にとっても、単元の進め方について具体的なダイナミックな展開のイメージがもてる教科書です。

**村川**：噛めば噛むほど味が出る、そういう教科書に仕上がりました。もちろん見た目も素晴らしいもののできました。是非使ってほしいです。

経験を積み重ねて教師は成長していきます。その成長速度は、工夫することで速めることができます。教師が早くその手立てを身に付けることができる、そういう教科書ができたと思います。



# I 草花単元編 4月の学年会にて

新学期が始まりました。忙しい中、1年生の学年会を開いて、初めて生活科を教えるA奈先生とベテランのB子先生が、生活科の栽培活動の単元計画を立てようとしています。今年の栽培活動は、アサガオを育てることを中心にしていこうと、話し合ったようですが…

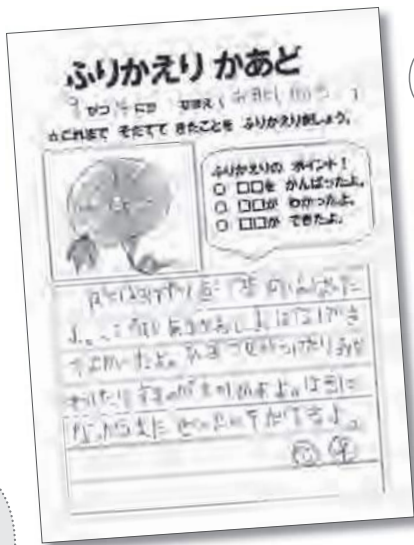
## 1 教科書を参考にして単元で育てたい具体的な子どもの姿を！

教科書50ページを見てみましょう。活動のイメージがわくわよ。

育てた後に、こんな言葉が書ける子どもってすごいと思わない？

そうだね。この子はどんなひみつを見つけたんだろう。きっと、気付きの質も高まっているよ。

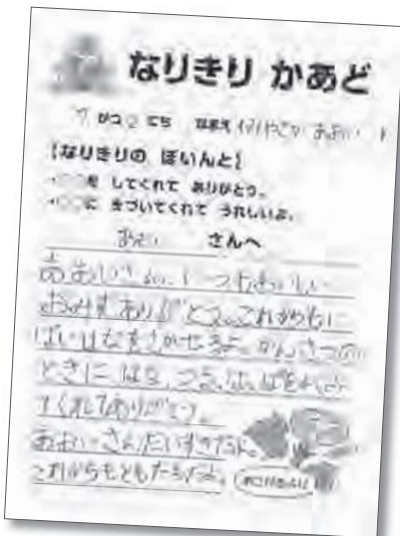
どんな子どもを育てたいか。その子どもの姿を明確にもって、支援をしていくことが大事だね。教科書の子どもや先生の姿は、活動の一例だけど、大きな参考になるね。



上巻 P50

9月に書いたワークシートですね。

「ここでおはなしてきてよかったよ」って書いていますね。



上巻 P47

47ページは、アサガオになりきって、自分のがんばりをほめていますね。

わたしのクラスの子どもの、こんなふうにアサガオの気持ちを考えられるようになってほしいです。

## 2 教科書から子ども主体の活動のヒントを！

アサガオを育てるのが、やることは決まっていますよね。

それを、子どもたちに考えさせてやるのが大事なんだよ。例えば、44ページを見て。

この教科書の中では、先生がアサガオの気持ちになれるお面をわたしているね。これも支援の一つだね。

アサガオの気持ちになって支柱の必然性に気付かせるんですね。



上巻 P44

そう！わたしは以前、アサガオのつるが伸びてきて、子どもが困るまで、辛抱強く待ったの。子どもが「どうしよう。」って困った時、逆に「どうしたらいいと思う？」って、考えさせたの。

どうしたらいいのか、子どもが自分で気付きましたか。

気付いたのよ。お兄ちゃんやお姉ちゃんがアサガオを育てたのを見てた子が、何人かいてね。「棒がいります」って。それから、教科書が子どもの大事な情報源になったの。「ここにもものつてるよ。」って確かめて。自分たちで考えた支柱だから、大事に立てて、「ああ、これでよかった、安心だ。」って、心からの声が出た。

教科書って、そんな使い方もできるんですね。



上巻 P45



## Ⅱさんぼ単元編

# 子どもたちが使いたくなるニコニコ教科書活用術

少しずつ生活科のことがつかめてきたA奈先生、さらに教科書を使って活動を深める方法をB子先生と話し合います。

### ポイント

- ① 気付きを引き出す → 自分たちの活動とつなげる
- ② 見通しをもたせる → 自らの学びを振り返る

さんぼ単元の扉



上巻 P52-53

単元の導入ってポイントですよ。

単元扉の絵から、子どもたちの気付きを引き出すのはどうかしら。

気付きと教科書とをつなぐ声かけをするのがコツね。「教科書にひみつがかくされているよ」というような言い方をするといいわよ。

※気付きを引き出す&見直しをもつ

こんなことを事前に考えておくとよさそうですね。

- |       |                        |
|-------|------------------------|
| 体験    | どんな体験をすればいいのかわ。        |
| 思考・表現 | ただ体験だけをさせていけばいいのかわ。    |
| 評価    | 気付きの質の高まりってどうみればいいのかわ。 |

### 3 対象への気付きの質の高まり、出会わせ方のヒントを、教科書から得る



アサガオへの思いを深めて、育てていくと、アサガオをよく見るようになるよ。

43ページの子どもたちって、いろいろなことをして、アサガオを見ているですね。



上巻 P43

今まで、ここまでアサガオのことをよく見たことはなかったな…。

「さわってみたら…」というところ、子どもがアサガオを見るヒントに使いそうです。

子どもとアサガオを大事に育てたら、きっと先生も新たな発見をするよ。

すごい！教科書をどう使うのか、イメージがわいてきたね。



41ページと、42ページのワークシートでは、内容がずいぶん違いますね。こういうのを気付きの質が高まっているというのでしょうか。



◀上巻 P41

そうだね。これも、アサガオへの思いを深めて、よく世話をして、そして、よく見たからこそ、いろいろなことに気付いている一つの姿だね。

単元でめざす具体的な子どもの姿をまず明確にしようね。そして、活動の流れを考えていく。

アサガオとの出会い！34ページから37ページが参考になりそうです！



上巻 P42▶

# 体験



教師が教科書を参考に  
してその通りやらせる  
だけでは…。

「体験」って言うてもどんなことを  
させたらいいのでしょうか。



教科書をきっかけに、子どもたち  
自らが findings やってみたいという  
ことが大事ね。さらに子どもたち  
はもっと発展したことを思いつき  
ます。それを認めてやらせてみる  
とよいでしょう。



## 諸感覚を用いて



上巻 P58-59

※教科書を使うと、教科書に載っている  
遊び以外のことをしている子が見えや  
すくなる。教科書の遊びと比較しなが  
ら進められるため、子どもの見取り(声  
かけ等)ができる。

## 自然物での遊び



上巻 P60-61

## 昔の遊び



上巻 P94-95

# 思考・表現



見つけてきたものや  
遊んだことの発表会を  
しようと思っています。

体験だけをさせていればそれでいいのかってこ  
とがよく言われていますよね。



そうね。活動の中で伝えたい思い  
(自分だけのひみつ)をたくさんも  
たせる声かけをする。そして、自  
分が相手に伝わりやすい方法を選  
択して発表させることがポイント  
になるでしょう。



上巻 P62-63

# 評価

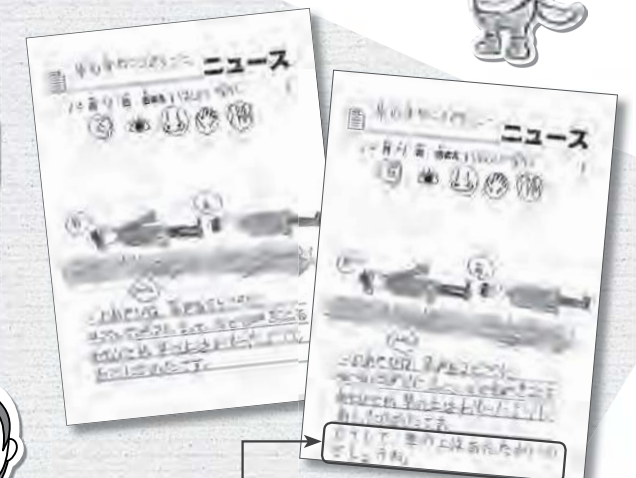


「めあて」をもとに、どういう言葉  
を引き出したかという視点をも  
っておく必要がありますよね。  
たとえば…このページのカード。  
こういう気づきをさせたいとい  
う参考です。

気づきの質の高まりってとらえるのが  
難しいですよ。



よく見ると教科書のワーク  
シートには、そういうヒント  
がたくさん入っているん  
ですね！



気づきの質を高める朱書きの例 上巻 P90

# Ⅲ 成長単元編

## ある日の学年会

A奈先生の同僚、C美先生が、D雄先生と学年会で話し合っています。  
それぞれ違ったアプローチで生活科の実践イメージをつくっていききました。

C 美先生の場合…

まずは自分たちの成長を  
実感させたいです！

みんなのいいところ  
はるか さんへ  
その時、みんなに自分の成長を  
伝えてほしいです。

それには、この  
ページを使って自分や友だちのよさに  
気付かせるという  
アイデアだね。

▲下巻 P99

国語で学習した「ふき出し」を使って、  
気持ちを考えさせたいです。

うまれてきて  
くれて  
ありがとう  
※子どもにふせんを渡し、  
書かせてみる

下巻 P102▶

ワンポイント！ (ICT活用)  
黒板に、実物投影機で教科書を  
拡大して投影し、子どもの  
ふせんを集めて貼る。みんな  
で近づいて見れば、いろいろ  
なことが共有できる。

実体験をイメ  
ジさせることが  
大事だね。

取材や発表の方法っていろいろ  
あるんですね！

P104-105  
取材について

図鑑・資料ページ

P128  
なんでも  
ずかん

P106-107  
まとめ方  
について

図鑑、資料ページ  
も活用するとより  
深まりが出るよ。

## 気付き

## 思考・判断

D 雄先生の場合…

最後のページを見せて、  
そこからさかのぼって全  
体の見通しをもたせると  
いう方法も考えられるね。

下巻▶ P112-113

下巻 P112▶

ワンポイント！  
その後、最初のページ  
に戻って登場人物のス  
トーリーを追っていく。

そうか！「なりたいわ  
たし」になるためにど  
んなストーリーがある  
のかを意識していける  
ということですね。

こうすることで、  
自分の場合はどう  
だろう…というこ  
とにつながっていく  
よね。

下巻 P98▼

▲下巻 P99

自分が気付い  
ていないよ  
さにも気付  
けそうですね。

下巻 P100▲

手立て

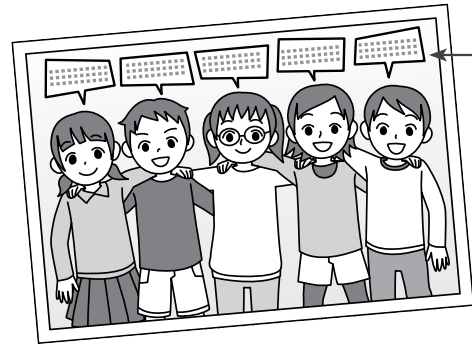
書いたカードは分類  
するといいよ。

得意なこと	人との関わり
<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
行動について	
<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

本当ですね。子どもたちの思考を整理し、  
深めさせることができますね。

## IV 図鑑・資料ページ編

# 使えば使うほど得をする図鑑ページ



吹き出しの形に切った紙を貼る。

最後に下巻 P112～113のように  
写真を撮って3年生への意気込みを書く…など、  
教科書から活動イメージを  
ふくらませるのも一つの手です。



下巻 P108-109



同じねらいでも、教科書  
をうまく活用すると  
多様な展開ができるん  
ですね。

ねらいをしっかり  
もって実践できる  
と思うよ。



## 表現

### 一人ひとりのストーリーを大切に

本単元では、今日までの成長を振り返り、多くの人に支えられてきたことに気付かせるとともに、誰もが大切な存在であることを実感させることがポイントです。

そのために、普段から、自分だけでなく友だちも、たくさんの人々に大切にされ、かけがえない存在であることを、認め合える関係をつくっていききたいものです。

## スバリ 4つの得

〈自然への気付き〉

① 季節感を感じながら気付きや関心を高められる。

〈社会への気付き〉

② まちの工夫や地域のよさ、伝統などに気付ける。

〈学習の手引きとして〉

③ 「話す」「聞く」「伝える」などのポイントがわかる。

④ 防災、環境、食育などの今日的課題に対応できる。

ポイント満載！  
まちを歩きたくなるね！



### ● お役立ち！図鑑ページ

授業を通して出てくる疑問。A奈先生だけでなく、ベテランのB子先生だってその一人。そんな疑問にも図鑑ページが役立ちます。



町たんけん連れて行く時、  
どんな約束ごとを  
決めればいいかな？

図鑑ページには  
「出かけるときのマナー」として、  
気をつけることが  
載っていますよ。



1年生に季節のおもしろ  
さをわからせたいわ。  
よい方法はないかしら。

季節のコーナーが  
ありますよ。ヒント  
が満載です！



具体的な活用の仕方は次ページで！

# わたしなら、こう使う！



A奈先生の疑問をもとに、具体的な活用方法について、紹介します。

## 学習単元の流れ(全10時間) ※丸数字は時間数

- 1 学習計画を立てる。… ②
- 2 たんけんに行く準備をする。(約束, 質問づくり) … ① **ワサ1**
- 3 町たんけんに行く。… ② **ワサ2**
- 4 たんけん でわかったことをまとめる。… ② **ワサ3**
- 5 町たんけん発表会をする。… ①
- 6 お世話になった方に「ありがとう」を伝える。… ②

### ワサ1 (たんけん前に利用)

約束ごとを決めるときに「たんけんに出かけよう!」と「まもろうね!」の項目を提示し、子どもにイメージさせます。また「電車やバスの乗り方」は手引きとして利用できます。

### ワサ2 (たんけん後に利用)

見学の振り返りシートとして活用できます。印刷して配布すれば、自己評価しやすくなります。



### ワサの整理

図鑑ページは、学習のポイント場面で資料として活用すると効果的です。写真やイラストにも気付くポイントを含んでいます。



B子先生の疑問には上巻の「しよくぶつずかん」や「きせつだより」が効果的です。気付きの質を高めるイラストや季節の変化がわかる写真を取り上げています。

### ワサ3 (学習の手引きとして)

国語の学習と関連して、整理されているため、まとめる活動には最適です。イラストのポイントを確認すると5W1Hを意識したまとめ方を理解させることができます。

また伝え方の場面で活用すると相手意識が高まる発表を心がけるきっかけづくりができます。話型の理由付けにも着目させると効果的です。



下巻 P128-129

# 発展! こう使う

図鑑ページには、次のように、生活科の学習だけでなく防災学習や避難訓練などの学級指導にも役立つ情報を載せています。チェックシートとしても活用できます。

環境学習や食育活動に使えるページもありますよ。絵や写真が豊富なので、実物投影機を使うとさらにわかりやすい説明が可能です。



下巻 P122-123



防災・安全



片田 敏孝

群馬大学大学院教授  
広域首都圏防災研究  
センター長

「釜石の奇跡」の立役者として知られる。内閣府中央防災会議や中央教育審議会をはじめ、多数の委員会等に携わっている。

学校防災教育の重要性

釜石において防災の取り組みを始めた当初、わたしは地域における防災講演会を繰り返していた。しかし、講演会に顔を出す大人たちは、防災意識の高い人ばかりで、本当に話を聞いてもらいたい人たちは、防災講演会には関心を示してくれなかった。このままではいけないと考え、学校防災教育も始めようと思い立った。

「釜石は昔から何度も津波が襲ってきたことを知っているかい？」子どもたちの回答は、「知っているよ。おじいちゃんから聞いたし、学校でも習ったよ。」わたしは続けて聞いてみた。「じゃあ、津波が来たらどこに逃げるの？」子どもたちの回答にわたしは驚いた。「ぼくは逃げないよ。」「エッ？津波が来るのに、どうして逃げないの？」「だって、立派な堤防ができたもん。うちはおじいちゃんもお父さんも、みんな逃げないよ。」

この子が何の迷いもなく逃げないと答えた理由は、おじいちゃんやお父さんが逃げないからであり、大人たちに逃げない常識を与えられていたからなのだ。その結果として、この子どもたちが災害で命を落とすようなことがあったとしたら、それは間違いなく、この子に逃げないという常識を与えた大人たちの責任である。そう思ったとき、わたしは釜石での防災を学校防災教育中心で進めようと思いついた。

学校の防災教育は、家庭や地域と連動して初めて効果がある。そしてそれが10年、20年と継続されることによって、子どもたちは地域の大人になり、そして高い防災意識をもった親となって、次の世代に防災意識が継承される。こうして防災に関わる共通知が地域に備わり、防災文化が形成されるのだ。



河田 惠昭

関西大学教授  
阪神・淡路大震災記念  
人と防災未来センター長

東日本大震災復興構想会議や中央防災会議防災対策推進検討会議をはじめ、多数の委員会等に携わっている。

日常防災と日常安全、そして現代の危険

防災教育や安全教育は、教室の中でしか行われたいものではない。児童や生徒は学校にいる時間よりも、学校の外にいる時間のほうが圧倒的に多い。すなわち、学外で災害や事故に見舞われる機会が多いはずである。それを防災教育や安全教育でカバーしようとするほうがおかしいことに気付かなければならない。防災教育や安全教育の原点は、日常防災であり、日常安全なのである。そこでは、一人ひとりの生き方が問われていることは間違いがない。大人であろうと児童であろうと、また、要援護者であろうと健常者であろうと、災害や事故はお構いなしである。この非情さを理解し、生きている限りこれらと付き合わなければならないことを覚悟して、基本的な対処方法を身に付けなければならない。

現代の災害や事故の危険は、自然や車という相手に単に問題があるのではなく、それらと人間という複合体がつくり出すのである。まだまだ気付いていない危険が身の回りにたくさんあるに違いない。そういう現代社会が抱える本質的な問題を、防災教育や安全教育に携わる教員は知っていなければならないだろう。それを知らないと、単に避難訓練をやればよいとか、災害の種類やメカニズムを知ればよいとか、交通ルールを守ればよい、というような短絡的な対処方法に終始することになる。

そして、防災教育や安全教育は、教える側のわたしたち自身が必死になって生きていることを子どもたちに伝えることによって実現できると考えている。

環境



江守 正多

国立環境研究所  
地球環境研究センター気候  
変動リスク評価研究室長

専門は気象学、環境学。特にコンピュータシミュレーションによる地球温暖化の将来予測の第一人者。

わたしたちにできる温暖化対策とは

子どもに向かって説明する場合、温暖化対策の話は、こまめに照明を消す、レジ袋を断るといった生活面で実行できる内容に集中しがちである。これらはもちろん大切なことなのだが、「これらに気を付けていれば温暖化が止まる」と思わせてしまうと、大きな問題を見失うことになる。

2009年にイタリアのラクイラで行われたG8サミットでは、「2050年までに世界の温室効果ガス排出量を半減する」という目標がG8首脳の間で共有された。この目標からもわかるように、温暖化を止めるためには、最終的に世界の温室効果ガスの排出量を現状より何割も減らさなければいけない。明らかに、家庭の省エネだけでこれを達成することは不可能である。

そして、東日本大震災以降、日本はエネルギー政策の見直しを否が応でも真剣に考えざるをえなくなってきている。今生きている世代の日本人が、エネルギー、環境、経済を含む将来の日本社会のあり方を選びとるのだという考え方が一気に現実味をもち始めた。低炭素社会はその望ましい社会の一側面として、改めて位置付けられるだろう。

このことを、今から子どもたちに教える必要があると思う。省エネの話と比べると多少難しいが、非常に重要なことである。今の小学生は2050年に40歳代であり、立派な大人になって世界の排出量を見届けることになる。低炭素社会は今の大人たちがつくり始め、今の子どもたちが完成させなければならない。身近な省エネもそのための第一歩であるということを、ぜひ子どもたちに認識してほしいと願っている。

特別支援



大内 進

国立特別支援教育  
総合研究所客員研究員

視覚障害教育研究部盲教育研究室長、教育支援部部長等を歴任。視覚障害教育・心理・特別支援教育制度などの研究に従事。

特殊教育から特別支援教育、そしてインクルーシブ教育へ

わが国では、障がい等ある子どもの教育は長期にわたって「特殊教育」という対応だった。つまり、障がいがある子どもの教育は、障がいの種類や程度に応じて教育の場を整備し、そこできめ細かな教育を効果的に行うという方針で展開されてきた。その特殊教育が、2007年に特別支援教育体制に転換した。特別支援教育は、これまでの特殊教育の対象の障がいだけでなく、通常の学級に在籍するLD、ADHD、高機能自閉症も含めて障がいのある子どもに対してその一人ひとりの教育的ニーズを把握し、当該児童生徒のもてる力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服するために、適切な教育を通じて必要な支援を行おうとするものである。近年は、特別支援教育がインクルーシブ教育システムという観点で論じられている。インクルーシブ教育システムとは、障がいのある者と障がいのない者が可能な限りともに学ぶ仕組みのことであり、共生社会の形成がめざされている。その観点から、生活科の果たす役割に期待するところが大きい。中でも生活科の活動には、共生の関係を築くための機会がしっかりと用意されている。それはインクルーシブ教育システムのめざす共生社会の実現にもつながっているといえる。

是非とも生活科においては、障がいがある子どもも含めて様々なニーズのある子どもも視野に入れた「共生社会の基礎」となる実践がなされ、その成果が今後のインクルーシブ教育システムの構築に反映されていくことを期待している。

# 必読!

## 上巻巻頭の

# 「いちねんせいになったら」とは?

幼児教育から小学校への円滑な接続を図る活動をより充実させるために、「いちねんせいになったら」を創設しました。1年生の最初にスタートカリキュラムとして使えるのはもちろんのこと、学校探検やその他必要なときにその都度、いつでも使える形になっています。



### 和田 信行

東京成徳短期大学 幼児教育科教授  
東京都生まれ。  
都内の小学校教諭を経て、足立区、八王子市の各教育委員会の指導主事、都立教育研究所統括指導主事。  
その後、新宿区立四谷第三小学校長兼四谷第三幼稚園園長。元全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会会長を歴任。  
専門は幼児教育と小学校教育をつなぐ理論と方法の研究。

上巻 P6-7



### かかわる力

保育園や幼稚園での経験を共有したり教え合ったりしながら新しい友だちをつくっていくことで、自信をもって交流できるように配慮しています。

## 保幼小連携の第一人者 和田先生へ 突撃インタビュー

### ★保幼小連携の現状は? .....

平成20年に新しい学習指導要領が告示され、生活科編にスタートカリキュラムという言葉が入りました。そのため、都道府県や市区町村の教育委員会指導室や指導課が中心となって進めているところがかかりあります。

そして、スタートカリキュラムの考え方は、まだ様々です。入学後、一〜二週間、学校生活に適應できるようにするだけの学校もあれば、およそ一か月間、きちんとスタートカリキュラムとして授業を行っているところもあります。また、全くないところもあります。そういった違いはありますが、スタートカリキュラムが大切だということは理解されていると思います。

### ★なぜ、スタートカリキュラムが生活科の教科書に必要なのですか。

幼児期の遊びを中心にした総合的な活動から小学校の教科学習になるわけです。だからこそ1年生の4月は、生活科が中心となってつなぎの役割をすべきだろうと思います。第一単元の中に入れずに巻頭に置いたのは、第一単元である、学校探検でのみ使うものではなく、いつでも使える、また使っていくものだからです。現にこのような活動を行っている先生はたくさんいますが、その資料がないという話をしばしば耳にします。そのため、巻頭に独立して載せておけば、先生がいつでもどこでも誰とでも使えるわけです。間違えてほしくないのは、これを順番に教えなければならないということではありません。

### ★これを使うと、子どもにどのような力がつきますか。 .....

ズバリ三つの力がつきます。一つ目は、「かかわる力」です。学校が楽しい、友だちができた、先生と話をしたなどです。二つ目は、「生活する力」です。トイレの使い方、手洗いの仕方、安全な登下校の仕方などです。三つ目は、「学ぶ力」です。学習に対する意欲や準備と片付けなどです。この三つの力をつけると、学級が安定し、子どもたちが落ち着いて生き生きと学べます。

「いちねんせいになったら」  
もくじ

その1  
たのしいこといっぱい

その2  
ともだちに なるう

その3  
できると いいね

その4  
きを つけてね

その5  
わたしの いちにち

その6  
じゅんびと かたづけ

その7  
じゅぎょうの やくそく

上巻 P8-9



### 生活する力

ロッカーや靴箱の使い方、トイレ、手洗いなど学校生活の基本的なルールを意識付け、どうすればよいのか、子どもたち自身で考えながら見て、実践する力をつけます。



# 必然性のある伝え 合い・交流活動を 小単元に！

## 上巻

- 1 教師からはたらきかけにより、伝え合い・交流活動を意識させます。



上巻 P70-71

- 2 発表では、夏休みに育てた生きものや発見した「実物」などを持ち寄り、表情や身ぶり、手ぶりを交えて表現しています。

言語のみによらない方法を取り入れ、子どもたちの伝え合い・交流活動のきっかけとなるようなレイアウトを心がけました。



上巻 P72-73

## 野口 徹

山形大学 地域教育文化学部准教授  
東京都立小学校、ロンドン日本人学校勤務を経て、現職。  
日本生活科・総合的学習教育学会常任理事。

小学校に入って初めての夏休みを楽しみに迎えてもらいたいという願いから、期待をふくらませるレイアウトを工夫しました。



## 山形大学から発信！ 野口先生へ 突撃インタビュー

### ★伝え合い・交流活動の現状は？

伝え合いといいますか、言語活動は、かなり意図的に授業の中に盛り込まれている印象です。その中で二極化しているのが現状ではないでしょうか。一つは、子どもたちの中で本当に伝えたい思いや聞きたい内容への意識がしっかりと醸成されている授業。もう一つは、形式的な「伝え合い」になっており、形骸化してしまっている授業。生活科の授業が前者となるように改善していくことが課題です。

### ★なぜ、教科書で伝え合い・交流活動を独立単元化させたのですか？

一つには、子どもたちが伝えたくて聞きたい内容は何かと考えたときに、よく共通体験後の情報交換や単元終末期の発表会などがあげられますが、そこで伝えるのはどれもクラスの中で起こっていることで、多くの内容は子どもたちがすでに共有しています。「伝えたくて聞きたい内容」として考えると、少々弱いのではないかと。二つ目には、夏休み明けの時期は季節の移行期で、生活科の単元としては、十分な内容をもった活動を設定するにはもてあますことが多いこと。以上の2点から、夏休み前後に伝え合いに特化したミニ単元を開発しました。

## 下巻

- 1 子どもたちが主体的に夏休みの計画を立てます。



下巻 P66-67

- 2 夏休み中に、発表を想定して活動の記録をまとめます。



下巻 P68-69

- 3 発表の仕方を子ども自身が考え、工夫してまとめます。



下巻 P70-71

- 4 上巻よりレベルの高い発表手法を提案し、伝え合い・交流活動をしませす。



下巻 P72-73



**自然** ● **しょくぶつ すかん** 上巻 P124-125



生活科でよく題材になるものを中心に、日本各地に生息する身近な植物を季節ごとに紹介。

**用具** ● **ようぐをつかってみよう**

上巻 P138 下巻 P130-131



日文・図画工作著者監修。上・下巻で発達段階に合わせて、用具の使い方を紹介。

**環境** ● **かんきょうをまもるくふう**

下巻 P120-121



生活科における3Rの解説、自然との共生の啓発、環境のためにできることを提案。

**スキル** ● **はなしかた つたえかた** 上巻 P134-135  
● **しらべかた まとめかた** 上巻 P136-137  
● **聞く まとめる つたえる** 下巻 P128-129



全単元共通して使えるまとめ方や伝え方の方法を解説するスキルページ。

**制作** ● **おもちゃをつくろう** 下巻 P92-95



遊び・制作単元内に登場した動くおもちゃを中心に、わかりやすく丁寧に解説。

**防災・安全**

● **あんぜん きょうしつ** 上巻 P122-123  
● **地しんや 火事がおきたら** 下巻 P122-123



交通安全や人的災害への対処、自然災害への備え。特にページを割いて丁寧に解説。

**福祉**  
● **みんなにやさしい町のくふう** 下巻 P118-119  
● **点字にふれよう** 下巻 P132



バリアフリー、ユニバーサルデザイン、点字を掲載。点字は特殊加工により触って実物を体験できる。

**ルール・マナー**

● **出かけるときのマナー** 下巻 P116-117



町たんけんでの活用を想定した公共マナーのページ。周囲への配慮ある行動を説明。

**自然・制作**

● **くさばなあそび すかん** 上巻 P64-65  
● **あきのすかん** 上巻 P86-87



さんぽ単元などで使える、草花や木の実を使った制作活動を支援するページ。

**食育**  
● **おいしく食べよう** 下巻 P124-125  
● **地いきのりょうりいろいろ** 下巻 P126-127



食育の資料。マナーやレシピなどを紹介。つくってみたいくなる郷土料理も掲載。

**伝統・自然**

● **むかしあそび すかん** 上巻 P96-97  
● **きせつだより 春夏秋冬** 上巻 P126-133



日本の伝統文化、地域に伝わる伝統行事から自分の地域についてまでを学ぶ。

**生き物** ● **ひみつ 発見 大発見** 下巻 P62-65



虫の飼い方から一生涯までを学ぶことができる。また、擬態も収録。理科的な思考を重視。

# わたしのこだわり

## 子どもの宝物になる教科書を!



**真島 聖子**  
愛知教育大学准教授  
(社会科教育学分野)  
韓国教員大学校専任  
講師, 愛知県春日井  
市立山王小学校教諭,  
知立市立知立西小学  
校教諭を経て現職。

### わたしの教科書なんだよ!

初めて出会う教科書は、子どもにとっては宝物だと思います。持っているだけでうれしい。たんけんに行く時にも、調べ学習をする時にも、家の人と話すときにもそばに置いておきたい。例えば、おじいちゃんやおばあちゃんに、「わたしの教科書なんだよ」と言いたくなる、そんな宝物のような教科書をめざしてつくりました。



上巻表紙



下巻表紙

▲子どもの成長を願う気持ちがいっぱい  
つまった教科書。その全てが表紙に  
凝縮されている。

## 多様性を大事にした教科書に



**馬野 範雄**  
大阪教育大学准教授  
大阪市立内代小学校教諭, 大阪  
教育大学附属平野小学校教諭,  
その後, 大阪教育センター主任  
指導主事を経て現職。

どのような人にも  
使いやすい教科書  
づくりを心がけまし  
た。その一言に尽  
きます。



上巻 P54-55



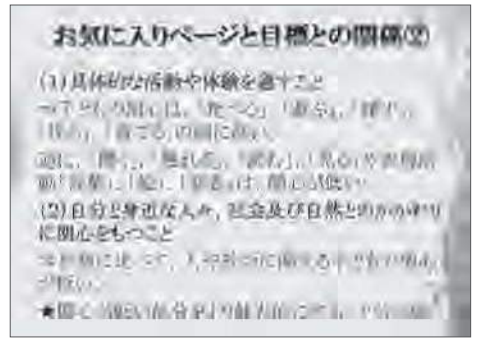
下巻 P86

## 子どもたち、教師を目指す大学生へのアンケートから

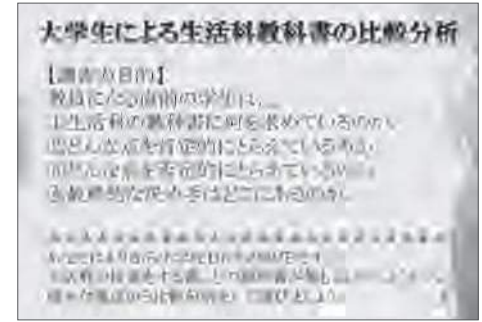
### ◎子どもの視点

全ての考えを聞くことを出発点としました。わたしがこだわったのは、学び手(子ども)、教え手(教師)、つくり手(執筆者、編集、営業)の多様な視点を尊重し、そこから得られたことを具体的な形にすることです。

子どもの視点をすることで、学び手の気持ちに寄り添った教科書ができると考えました。そこで実際に、「放課後児童クラブ」を訪ね、子どもたちに教科書を見せながらアンケートを実施しました。右記はその結果をまとめたものです。これらを常に意識しながら教科書づくりを行いました。



子どもたちへのアンケートの結果。子どもの関心が低い部分を、より魅力的にすることが教科書づくりのテーマになっていった。



この目的に沿って大学生にアンケートを行い、分析を行った。

### ◎教える立場の尊重

次に、教師をめざす大学生にアンケートを実施しました。

アンケートの結果、以下のような課題が明確になりました。

- ・テーマやポイントの明確さ、教えやすさ、わかりやすさ
  - ・伝え合う活動・言語活動の充実
- さて、どのような教科書に仕上がったのか、是非先生方自らお手にとって確かめていただきたいと思います。

まずはじめに、子どもたちの生の声、これから先生になる学生の声を聞くことから教科書づくりを始めました。



### ◎多様性とは

多様性と一口に言ってもたくさんのことがあげられます。北海道から沖縄までいろいろな地域があるという多様性もあれば、幼児からお年寄りに至る、いろいろな世代の人がいるという多様性もあります。また、障がいのある人、病を抱えている人、そういう多様性もあれば、外国の人という多様性もあります(左ページ教科書紙面参照)。そのような様々な意味で、これから社会とかかわっていく子どもたちがあらゆる人たちと適切に対応できるようになるということが非常に大事であると思っています。だからこそ、その教科書をつくっていく上で、一面的であったり、偏りがないように心がけたのです。学習活動の場や学習の対象だけでなく、例えば登場人物にも外国籍の子が出てきたりしています。教科書をつくるに当たって、「一人ひとり違って、みんないい」という個性の多様性、個性の尊重を意識してきたように思います。

### ◎家族単元を下巻から上巻へ

発達段階を考慮すれば、人間が産まれて、初めて出会う最小単位の社会が家族です。そして、現代で家族の一員として子どもがどのようにかかわっているかという視点で取り組みやすい上巻の冬休み前後に配置しました。



上巻 P106-107



# Dr.小林の これなあに？

特別編



小林 辰三

上越教育大学大学院 教授。  
1952年、岡山県生まれ。専門は理科教育学。タンポポの教材化に関する研究で、兵庫教育大学から博士(学校教育学)を取得。散歩に出かけて足もとの自然をカメラにおさめるのが趣味。

今回は教科書特集号のため、教科書に掲載されている図鑑ページを解説します。

## ハルジオンとヒメジオン

ハルジオン(春紫苑)とヒメジオン(姫女苑)は、とてもよく似た花を咲かせる野草です。全国の道ばたや空き地などに生えています。ハルジオンは春から初夏にかけて花を咲かせます。中心の黄色く見える部分には、筒状の花がたくさんついています。その外側には舌状の花弁をつけた花が車輪のようについています。花弁の色は、白色や桃色など、幅があります。一方、ヒメジオンは、ハルジオンよりやや遅れて、初夏から秋にかけて花を咲かせます。外側の舌状の花弁の色は、白色だけです。

ハルジオンの茎は中空になっているのに対して、ヒメジオンの茎は、白い髓が詰まっているので、茎の断面の違いで区別できます。



上巻 P124-125

四季の変化にともなって、道ばたや庭先などの植物の顔ぶれが移り変わっていきます。そのことが一目でわかるように、春・夏・秋・冬を軸にして見開きで生活科で身近な植物を掲載しました。また、花の蜜を吸っているチョウや花粉を食べているハナムグリの写真も掲載して、植物と昆虫とのかかわりに気付けるようにしました。



ハナムグリが花粉を食べています。



ベニシジミは、蜜を吸っています。

## 生活&総合 navi vol.68

日文教育資料[生活]  
平成 26 年(2014年)4月2日発行  
編集・発行人 佐々木秀樹

発行所 日本文教出版株式会社  
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5  
TEL: 06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

表紙・27年度版生活科教科書表紙イラスト にしだ さとこ  
CD33229

## 日本文教出版 株式会社

<http://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5  
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171  
東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16  
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618  
九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14  
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938  
東海支社 〒461-0004 名古屋市長区葵1-13-18-7F-B  
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261  
北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1  
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690